

## 取締役会実効性評価サマリ

当社は、取締役会の実効性評価を毎期実施し、前期の評価で認識された課題への取組みを確認するとともに、来期に向けた課題を抽出し、取締役会実効性向上のPDCAサイクルを重視しています。

### 前期（2025年3月期）の評価で認識された課題への取組み

昨年度の実効性評価の結果を踏まえ、2026年3月期、取締役会及び取締役会事務局は、以下の点に取り組みました。

2026年3月期課題認識	取組内容
(1) 社内取締役と社外役員とのよりインタラクティブな議論の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>議長のファシリテーションによるインクルーシブな議論の推進</li><li>十分な事前説明により取締役会での実質的な議論を実現する取組の継続</li><li>CEOによる全体戦略・国際情勢への対応方針に関する適宜の説明・情報共有</li><li>フリーディスカッションでの次期中期経営計画・人的資本経営に関する議論の実施</li><li>取締役会メンバーのエンゲージメント強化イベントの実施</li></ul>
(2) 取締役会における議論の充実化・高度化のための施策	<ul style="list-style-type: none"><li>議題の精査、書面決議・報告の更なる活用等による取締役会日の集約化</li><li>効率化と実質的な議論の両立を目的とした議場開催とオンライン開催の使い分け</li><li>重要案件に関する適時適切な社外役員宛の報告・情報共有</li><li>招集通知発送・取締役会資料配布の早期化</li><li>取締役会メンバー向けポータルサイトの開設</li><li>諮問委員会に関する社外役員向けフィードバック</li><li>取締役会付議・報告基準の改定</li></ul>

### 2026年3月期の実効性評価

第三者機関（外部専門家）を起用し、取締役会実効性評価を実施しました。社外役員会議、ガバナンス委員会及び経営会議での議論を経て、2026年4月開催の取締役会で2026年3月期の取締役会の実効性は適切に確保されている旨、決議しました。

実効性評価の方法	<b>第三者機関を起用した取締役会実効性評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>取締役・監査役全員を対象としたアンケート</li><li>第三者機関による、社外役員個別インタビュー及び結果の分析・取りまとめ（報告）</li></ul>
評価結果	<p>下記の内容を総括した結果、当社取締役会は、2026年3月期の取締役会の実効性は適切に確保されていると判断</p> <p><b>【取締役・監査役のリビュー結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>コンセンサス・ベースの原則の下、自由闊達な議論が行われており、議論を尽くして全員の合意を目指す議事運営が適切に行われている。</li><li>前期の実効性評価に基づいた改善や運営方法の変更により着実に実効性が向上している。</li><li>経営上の重要なテーマ・考え方についてCEOから都度十分な説明が行われている。</li><li>現在の構成はダイバーシティが確保され、社外取締役・監査役の専門性のバランスもとれている。様々なテーマについて充実した議論が行われ、モニタリング機能もよく発揮されており、取締役会は高い実効性を維持している。</li><li>取締役会・フリーディスカッションにおいて、企業戦略のコアとなる議論や成長戦略について、率直かつ丁寧な議論が行われ、対応方針が明確になっている。</li><li>取締役会の事前ブリーフィングにとどまらず、社外役員会議における各本部報告、重要案件の進捗状況報告などにより俯瞰的な情報把握に役立っている。正式に取締役会に上程される案件に限らず、重要な事項については社外役員への情報共有を充実させる工夫があり、総じて良く運営されている。</li><li>議場開催とオンライン開催、議案の内容に応じた書面決議・報告の活用により、メリハリをつけたスムーズ且つ効率的な取締役会の運営が行われている。</li></ul> <p><b>【第三者機関報告】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>当社の取締役会では経営の重要課題について適切に議論が行われており、取締役会の実効性は高い水準にあるということが確認された。</li></ul>
更なる実効性向上に向けて	<p><b>【2027年3月期課題】</b></p> <p>取締役会審議の一層の充実化と運営の効率化の推進</p> <p>取締役会における審議の更なる発展と効果的な取締役会運営の両立に資することを目的とした、以下取組みを検討</p> <ul style="list-style-type: none"><li>社外役員・社内役員夫々の経験・知見・バックグラウンドを活かして行われる双方向の議論を土台とした、審議の更なる深化</li><li>取締役会開催方法に関する継続的な検討及び取締役会への発展的な情報共有</li></ul> <p><b>【中長期課題】</b></p> <p>外部環境及び当社ステークホルダーとの対話結果等も踏まえた、機関設計及び構成を含む取締役会のより良い在り方に関するガバナンス体制の継続的検討</p>